



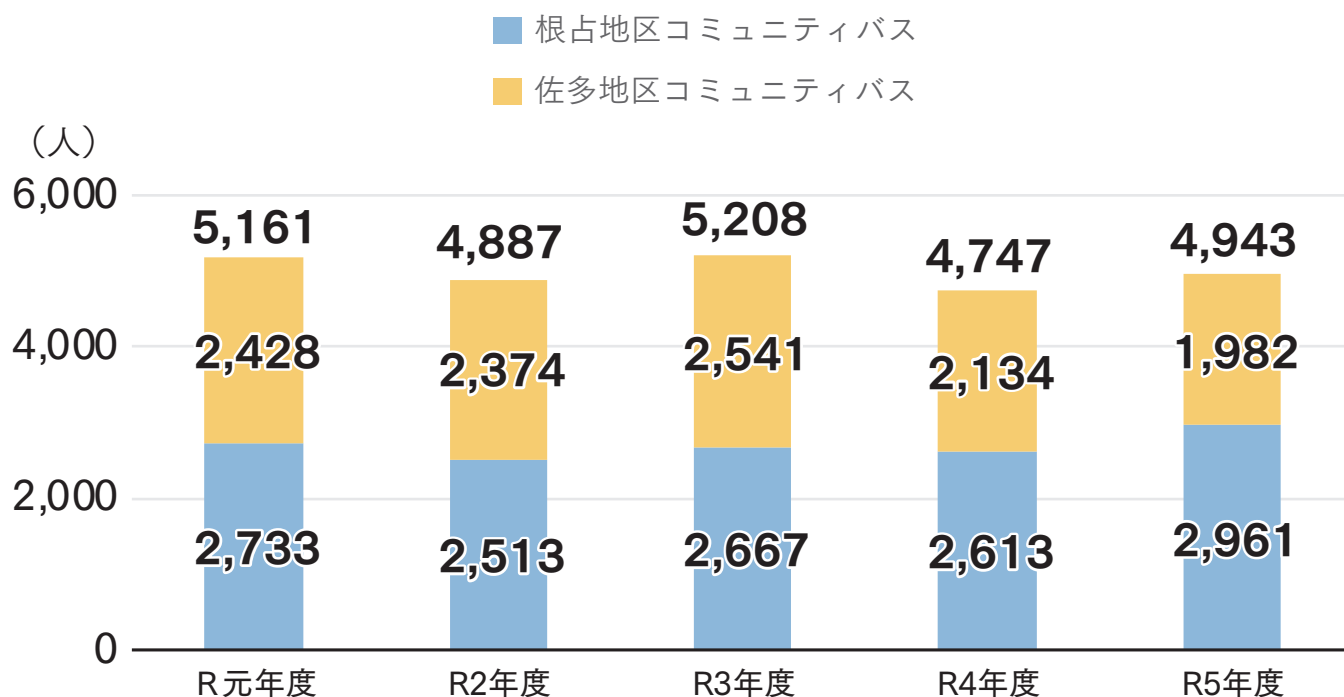
1. 道路・交通基盤の整備

担当課 建設課 総務課 デジタル推進課 企画観光課

現状と課題

- ・本町の道路網は国道269号・448号の2路線、県道が主要地方道路鹿屋吾平佐多線など7路線で、これに連絡して集落や公共施設を結ぶ形で町道、農林道が走っており、これらを一体とした道路の整備は、まちづくりや観光振興のための重要な課題となっています。
- ・町道、農林道については、逐次改良・補修工事を実施していますが、幅員の狭い道路や経年等により傷んだ舗装、未改修箇所も多く、今後も引き続き改良・補修工事を進め、災害にも強い道路整備を行う必要があります。
- ・高齢者の安全を守るためのガードレールや歩道、自転車、自動車等の運転手確認を補うカーブミラーや注意喚起を促す標識など交通安全施設の一層の整備が必要となっています。
- ・また高齢者のみならず、歩行者や自転車利用者などを含む道路利用者全体の交通安全に対するルールの徹底とマナーの向上のため、学校等での交通安全教育や交通事故防止に対する意識の高揚に取り組み、交通事故の減少、安全で円滑な道路交通の確保、快適な交通環境の実現のために、町民と行政が協力して取り組む必要があります。
- ・公共交通については、廃止路線代替バス、スクールバスの一般混乗とコミュニティバス、乗り合いタクシーを運行していますが、人口減少や少子高齢化が進む中で、高齢者や交通弱者が安全・安心に移動できる公共交通の維持や整備の見直しが必要となっています。

コミュニティバス利用者の推移



目指す状態

対象 町道 農林道 道路施設 町民 来町者（観光客含む） 交通事業者

意図 町内及び町外へ安全・快適に移動できています。

KPI

指標	現状値	目標値
交通事故死傷者数	0件 (R5年度)	0件 (R11年度)
「道路・交通基盤の整備」に関する町民の満足度 （「満足」と「やや満足」の合計）	44.8%* (R5年度)	50.0% (R11年度)

主な取組

	担当
・町内の集落間をつなぐ道路の改良・橋梁補修・側溝補修等を計画的に進めるとともに、定期的な道路施設の維持管理も行い、通行時の安全確保を図ります。	建設課
・交通安全協会、警察などの関係機関と連携し、交通安全キャンペーン等により交通安全意識の高揚、啓発活動を推進します。また、通学路の安全対策の強化、交通安全教室の開催など子どもや高齢者の事故防止対策に重点的に取り組みます。さらに、ガードレール及びガードミラーの設置、区画線の整備を計画的に進めます。	総務課
・周辺市町と連携し、町民の福祉増進、生活の維持に重要な役割を果たしている地方バス路線の維持・確保及び鹿屋市街地や垂水港・志布志港など、主要な交通拠点等へのアクセスを改善するために、大隅地域全体の広域的な取組に努めます。	企画観光課
・南大隅町地域公共交通計画を策定し、町全体の交通手段の既存ルート・ダイヤ及び、コミュニティバス車両の適時更新、AI等を活用したデマンド交通や乗合タクシー等の導入等の検討も含めた運行形態の見直しを行い、利便性の向上を目的とした公共交通ネットワークの再構築を図るとともに、利用促進に向けた啓発活動に取り組みます。	企画観光課 デジタル推進課

個別計画・関連計画

- ・南大隅町橋梁長寿命化修繕計画(平成31年度～令和11年度)
- ・第11次鹿児島県交通安全計画(令和3年度～令和7年度)

*令和5(2023)年度「南大隅町のまちづくりに関するアンケート調査」結果



2. 環境保全と循環型社会の形成

担当課 企画観光課 町民保健課 佐多支所産業グループ

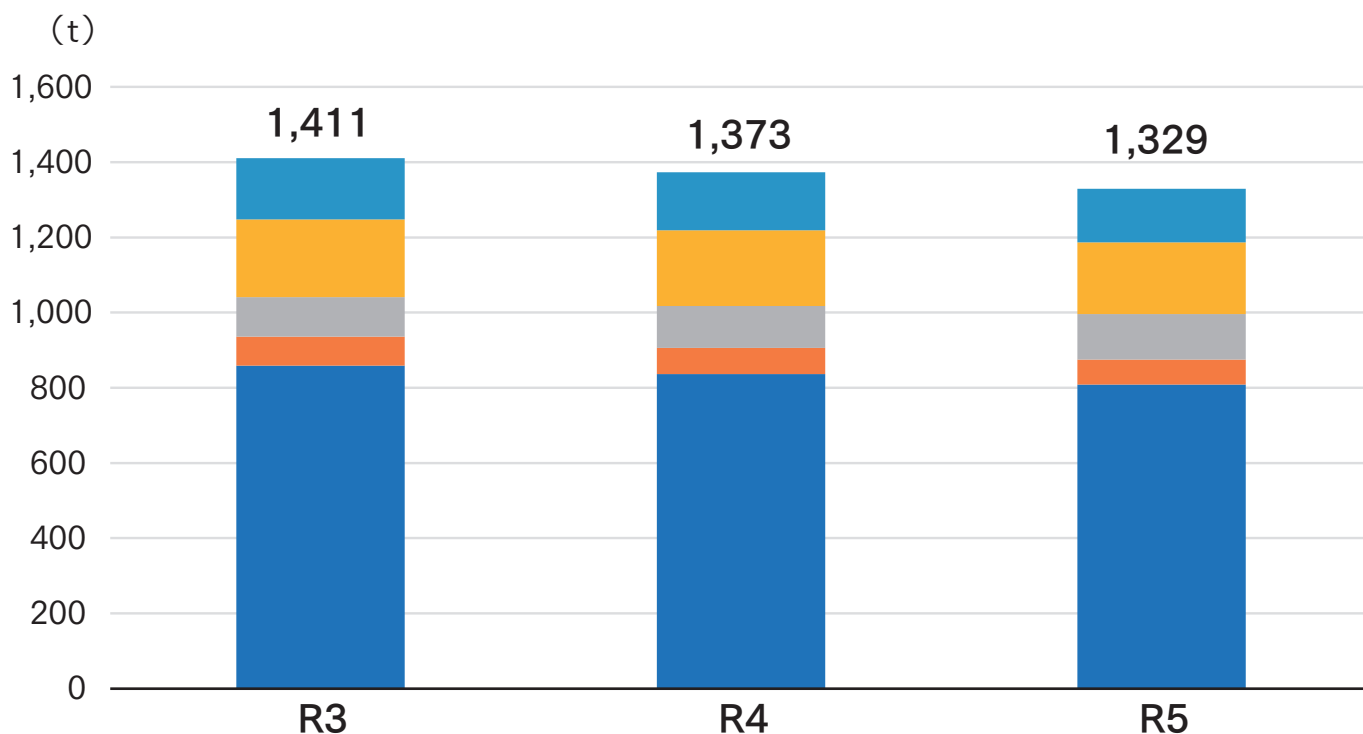
現状と課題

・地球温暖化は地球全体の環境に深刻な影響を及ぼすものであり、温室効果ガス排出量を削減することは、人類共通の課題となっています。

- ・本町においては、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする脱炭素社会の実現に向けて、令和3（2021）年7月に「ゼロカーボンシティ」の共同宣言を錦江町・肝付町・南大隅町の3町で実施しました。目標を達成するため、南大隅町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）及びゼロカーボンシティ宣言に基づき、脱炭素社会の実現に向けた取組が必要です。
- ・本町は、町内の大半を森林地域や河川・海岸等の豊かな自然環境に囲まれています。しかし、水質の汚濁や土壌の汚染などの課題もあり、環境保全に向けた取組が必要となります。
- ・また、廃棄物等の発生抑制、資源の再利用及び適切な処理の確保や合併処理浄化槽の推進など環境への負荷ができる限り低減された循環型社会の形成を目指す必要があります。

ごみの総排出量の推移

■ 可燃ごみ ■ 不燃ごみ ■ 粗大ごみ ■ 資源ごみ ■ 生ごみ



目指す状態

対象 町民 事業者 地方公共団体等

意図 環境負荷の少ない生活・事業を実践し、温室効果ガスや廃棄物、汚水の排出が抑制されています。

KPI

指標	現状値	目標値
温室効果ガス(CO ₂)排出量*	795.0t-CO ₂ (R5年度)	→ 676.7t-CO ₂ (R11年度)
ごみの総排出量	1,329t/年 (R5年度)	→ 3%減 (R11年度)

主な取組

	担当
・太陽光発電や風力利用など、再生可能エネルギーの導入を促進します。	企画観光課
・町民・事業者等と協力し、省エネ活動の普及・啓発を推進します。	企画観光課
・環境に配慮した製品の購入など庁内の省エネルギー活動に取り組みます。	企画観光課
・南大隅町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)に基づき、公用車の新規導入・更新時においては低公害車の導入に努めます。	各課
・環境保全を継承する人材の育成に取り組みます。	町民保健課
・5R(リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ・リペア) ¹⁹ の普及啓発に取り組みます。	町民保健課
・先行地域の施策を調査し、効果的な施策を行います。	町民保健課
・農業集落排水施設、浄化槽の長寿命化や維持管理コストの削減等を図りながら、公共用水域の水質保全に努め、良好な環境づくりに取り組みます。	佐多支所産業グループ

個別計画・関連計画

- ・南大隅町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)・南大隅町災害廃棄物処理計画
- ・南大隅町一般廃棄物処理基本計画・南大隅町生活排水処理基本計画
- ・循環型社会形成推進地域計画・南大隅町分別収集計画

*南大隅町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の目標年度(2030年度)排出量(653.1t-CO₂)より試算。
t-CO₂は、二酸化炭素1トンを意味する単位。

¹⁹ 5R リデュース(Reduce=ごみを発生させない)、リユース(Reuse=再使用)、リサイクル(Recycle=再資源化)、リフューズ(Refuse=ごみになるものを買わない・断る)、リペア(Repair=修理して使う)の頭文字をとったもの。



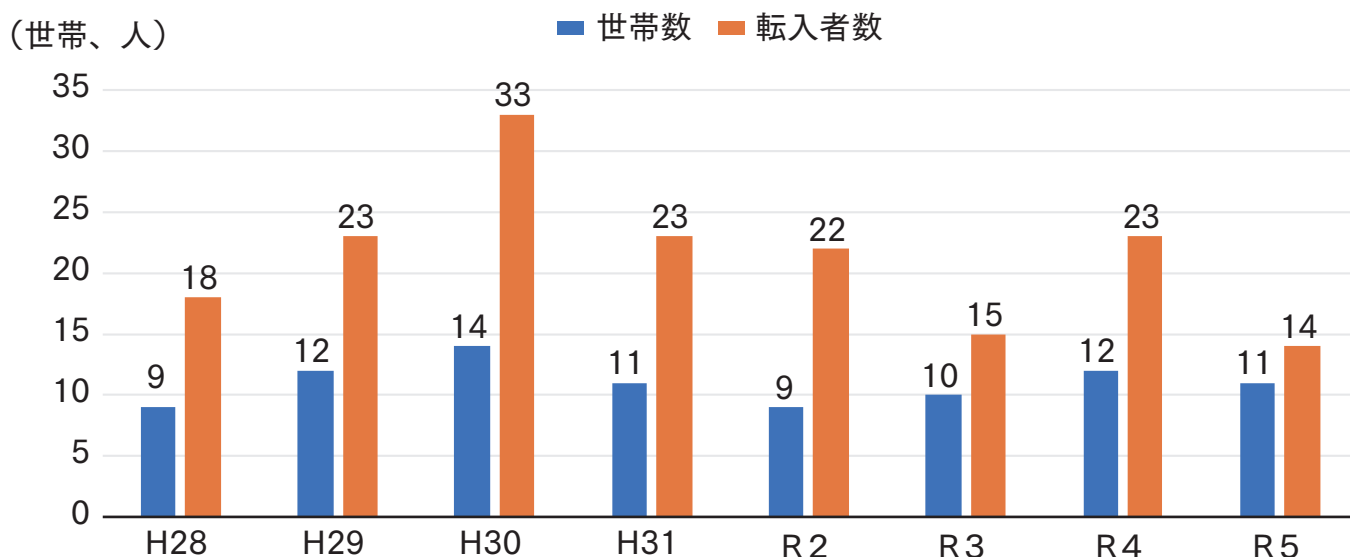
3. 生活基盤の整備

担当課 建設課 企画観光課 税務課 デジタル推進課 総務課

現状と課題

- ・本町は、大都市から遠く、就労の場も少ないことから、若者の人口流出が課題となっています。本町への移住定住を促進するためには、子育て支援や福祉対策など本町が独自に提供しているサービスに加え、それぞれの地域での暮らし方をトータルとして提案していく必要があります。
- ・町営・公営住宅は、入居者が安心して暮らすために今後も適切な維持管理が必要です。老朽化が進んでいる住宅については、南大隅町公営住宅等長寿命化計画に基づき、現地建替工事を実施し、安全で快適な住居を提供しています。

家賃補助等の交付者における転入者数の推移



- ・上水道は、令和2(2020)年度より旧簡易水道を統合し、給水事業を開始しております。相当年数経過している水道管もあるため、度々、漏水が発生している状況です。現在、計画的に更新事業を実施しておりますが、工事費や資材等の高騰等の課題があり、今後も道路改良工事との同時施工等による費用軽減に努め、安心して安全な水の供給を図る必要があります。
- ・地籍調査は、旧根占町が平成4(1992)年度から、旧佐多町が平成9(1997)年度からそれぞれ開始し、進捗率は令和6(2024)年3月現在、約34%となっています。本町は、他の地域と比べ、山間部や急傾斜地が多い上に、土地の一筆ごとの面積が小さく、調査すべき筆数も多いことから、実施に多くの費用と期間を要しています。土地所有者の高齢化が進む中で、地籍調査を円滑に進めるためには、関係者等への調査の理解、協力、周知も重要な課題となっています。
- ・通信環境について、本町では人口カバー率での光ファイバー網整備はほぼ完了していますが、その他での未整備地域や携帯電話不感地域が存在により、高速インターネット接続が困難で、動画視聴やオンライン会議など大容量データのやり取りを伴うサービスの利用への支障、電話やメールの利用が途絶えるなどインターネット接続が頻繁に切断される問題が発生しています。
- ・近年、幼児・児童・生徒が犯罪に巻き込まれる事件が多発し、高齢者に対しては振り込め詐欺など非対面的な犯罪の増加が顕著となっています。今後も引き続き、行政、警察署、防犯組合連合、地域、家庭が緊密な連携体制を強化し、多種多様化する犯罪の防止に努め、安全で安心なまちづくりを進めていく必要があります。

目指す状態

対象	町民 事業者 移住者（移住希望者） 空き家・空き地保有者 町内の地籍調査対象地区（土地改良事業、区画整理事業区域を除く）
意図	関係機関等の連携強化により、健全で快適な環境が確保され、安全で安心な生活を送っています。

KPI

指標	現状値	目標値
「生活基盤の整備」に関する町民の満足度 （「満足」と「やや満足」の合計）	48.3%* （R5年度）	55.0% （R11年度）
日頃（週に数回以上）インターネット を利用している町民の割合	62.5%* （R5年度）	70.0% （R11年度）
空き家バンク契約数	9件 （R5年度）	50件（累計） （R7～R11）

主な取組

	担当
・移住に係る各種助成を行い移住・定住を推進します。	企画観光課
・地域おこし協力隊や移住コーディネーターなど国や県等の事業を活用します。	企画観光課
・空き家・空き地バンク、お試し住宅等、定住促進に向けた対策を行います。	企画観光課
・各種移住体験プラン等の取組により、移住希望者へきめ細かなサポートを行います。	企画観光課
・婚活イベント、結婚祝金助成等を実施し若い世代の支援を行います。	企画観光課
・ネッピー・みさきちゃん奨学金等、Uターンを促す制度の運用を図ります。	企画観光課
・快適で住みやすい住宅の改修、建替を進め、住環境の整備を進めます。	建設課
・施設の統合や管路の更新・整備を順次行い、安定した給水供給及び施設管理の効率化、経営の合理化を図っていきます。	建設課
・土地所有者及び関係者の協力を得ながら、各種調査等に取り組み、地籍調査事業を円滑に実施します。	税務課
・高速インターネット接続可能地域の拡大のため、光回線の未整備地区の整備や地域内の公衆フリーWi-Fiの設置個所を増やし、いつでもどこでも便利なデジタル化を進めます	デジタル推進課
・防犯カメラや見守りカメラの設備維持・更新に取り組みます。	総務課

個別計画・関連計画

- ・南大隅町公営住宅等長寿命化計画（令和4年度～令和13年度）
- ・第7次国土調査事業十箇年計画

*令和5（2023）年度「南大隅町のまちづくりに関するアンケート調査」結果

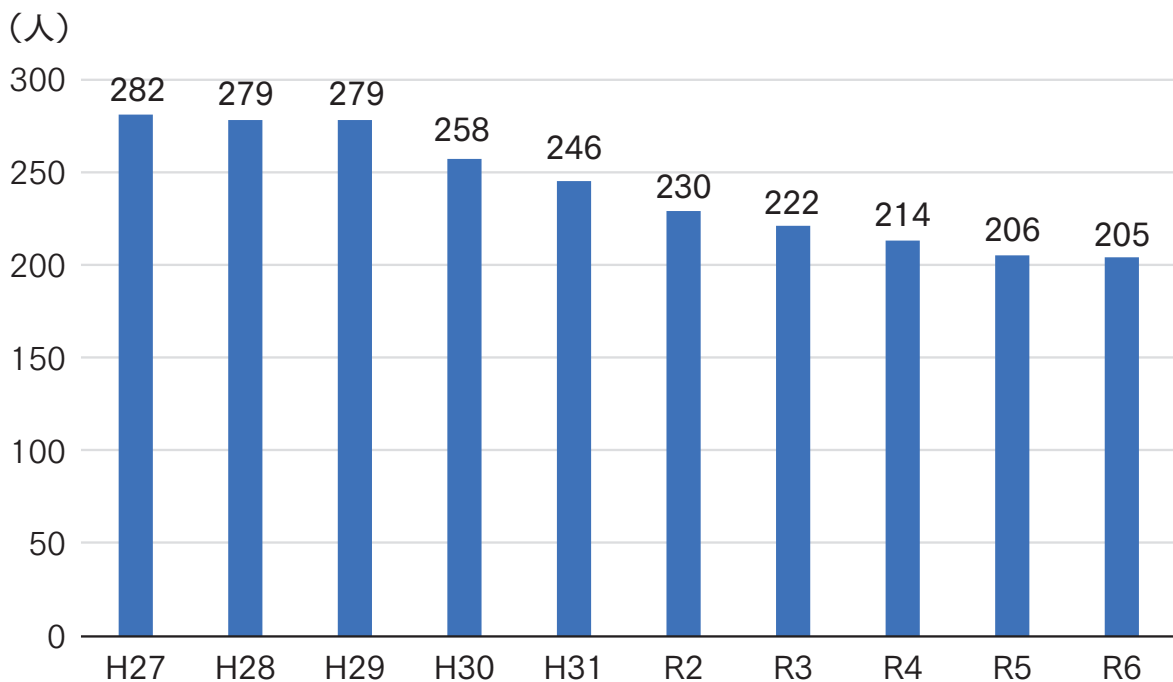
4. 消防・防災体制の充実

担当課 総務課

現状と課題

- ・近年、大規模な自然災害が全国各地で発生しており、地震や風水害、土砂災害等による不測の事態は、いつ起こるかわからない状態です。このような中、日々、防災意識は高まっており、災害に強いまちづくりを行うとともに、地域防災力の向上が重要になっています。町民の生命・身体、財産を守るため、「南大隅町地域防災計画」に基づき、災害に対する予防等の対策を行い、また、防災対策の基本指針となる本計画を定期的に見直すとともに、地域の強靱化を図る上での対応方策を定める「南大隅町国土強靱化地域計画」の見直しも行い、防災体制の強化に努める必要があります。
- ・災害が発生した直後は、交通網の寸断・火災の同時多発等により消防や警察等の防災機関が十分に対応できない可能性もあります。その際、力を発揮するのが「地域ぐるみの協力体制」であり、災害時には、「自助」、「公助」とともに、地域における自主防災組織等がともに支え助け合う「共助」が重要になります。「自分たちの地域は自分たちで守る」という心構えで、地区のみんなで助け合いながら、災害に強いまちづくりを進めるためにも、自主防災組織の育成・支援を行い、自主防災力の強化を図っていく必要があります。今後も、防災体制の基盤強化とともに、防災ハザードマップや一斉情報配信システムの理解促進と危険区域での災害リスクの再認識を促進し、自主的な早期避難など、防災意識の高揚を図る必要があります。
- ・また、消防団に対しては、車両、詰所の整備、装備の充実などを行い、地域における消防力の強化に取り組んできていますが、本町における消防団員は減少傾向にあり、高齢化や人口減少などにより将来的にはさらに減少する可能性があります。

消防団員数の推移



注：各年4月1日現在

目指す状態

対象 全町民 南大隅町消防団 自主防災組織

意図 災害発生に備え、被害を最小限に抑制できる体制や準備が整っています。

KPI

指標	現状値	目標値
消防団員数	206人 (R5年度)	200人 (R11年度)
自主防災組織数の維持	117組織 (R5年度)	117組織 (R11年度)
地区防災計画の作成率	0.0% (R5年度)	50.0% (R11年度)

主な取組

・地域防災の要である消防団に対して、消防施設、消防車両、消防資機材や装備などの適正配備に取り組むとともに、新規団員の加入促進を行い、団員数の確保を行います。

・また、各関係機関との訓練を行い、災害時の連携強化に取り組めます。

個別計画・関連計画

- ・南大隅町地域防災計画
- ・南大隅町国土強靱化地域計画

